

ビジュアルで振り返る50年



2人6脚



目の見えない人 見えにくい人が
行きたい時に 行きたい場所へ行ける
盲導犬との安全で快適な歩行は
新たな人生を豊かにします
常に当事者に寄り添い 常に時代をリードする
盲導犬の価値創造 挑戦は続きます



1967年、日本で初めての盲導犬協会 ここに始まり、今に続く

目の見えない人、見えにくい人たちに盲導犬との安全で快適な歩行を提供したい……
その思いと信念は、50年間変わることなく受け継がれ、挑み続けています。



初代理事長、迫水久常氏（前列左）と、初代の盲導犬ユーザーたち（1968年）。盲導犬学校の第1回卒業生は8人だった



盲導犬育成の事業計画と設立当初に作成された募金を呼びかけるリーフレット



当時の共同訓練の様子。
訓練士が後から見守るスタイルは今も変わらない

小金井訓練所



1974年、鉄骨2階建ての小金井訓練所を開設。この頃から訓練犬として、シェパードの他に、ラブラドル・レトリバーも登場

茅ヶ崎訓練所



1988年、神奈川県茅ヶ崎市に茅ヶ崎訓練所を開設



小金井訓練所の開所集った職員たち。ここからスタートした

日本最大級の盲導犬育成施設 神奈川訓練センター Since1997



常時およそ 40 頭の訓練犬が
元気に訓練を受けている



協会設立 30 年の 1997 年に開設。協会の施設の中でも職員数、訓練犬頭数が多く、
たくさんのボランティアが訪れる活気ある訓練センター



イベント会場でのデモンストレーションや
学校キャラバンなど、行ってきた啓発活動
の数も協会一！

東北地方の視覚障害者支援の拠点 仙台訓練センター (スマイルワン仙台) Since 2001



東北地方で唯一の盲導犬
育成施設で、東北 6 県・新
潟を網羅して活動。盲導犬
の育成だけでなく、白杖・
PC・日常生活訓練など視
覚障害リハビリテーション
も総合的にを行っている

恒例の「さくまつり」。秋
の収穫を祝う祭りで、セ
ンターを会場に毎年開催
され、近隣の方々との交
流も深めている



はくじょう
白杖 歩行の訓練中



点字の読み書きやパソコン訓練なども行う

盲導犬の一生をトータルにケアする 日本盲導犬総合センター (盲導犬の里 富士ハーネス) Since 2006



盲導犬の一生に寄り添うことを目的とした国内で初めての施設。富士山のふもとにある。毎日見学することができ、盲導犬や視覚障害についての理解を深める場を提供



盲導犬デモンストラーションの様子。常時見学者を受け入れているのは、国内でここだけ



繁殖、育成、引退犬のケアまで行うことができる。協会で生まれる子犬の大半は、分娩施設が整っているここで誕生している

日本初！受刑者によるパピープロジェクトを実施 島根あさひ訓練センター(パピネス) Since 2008



島根あさひ社会復帰促進センターに隣接して建てられている。裏庭には芝生のドッグラン場。週3回パピーは訓練センターで月齢に応じたトレーニングを受ける



法務省のPFI事業に協力し、受刑者が盲導犬候補のパピーを育成するという日本初の試み、「島根あさひ盲導犬パピープロジェクト」を実施中



日本で初めての盲導犬訓練士養成学校 日本盲導犬協会付設盲導犬訓練士学校 Since2004

盲導犬訓練士学校



慢性的な盲導犬訓練士不足を解消し、日本の盲導犬の将来を担う優秀な盲導犬訓練士の養成を目指して、日本初の盲導犬訓練士学校を神奈川訓練センター内に開校



多和田理事による訓練実習。一人ひとりが訓練犬を担当し、アドバイスを受けながら自ら戦略と計画を立ててトレーニングを行う



犬を育てる、
訓練士も
育てる

訓練士学校初代学校長、黒光庸恭氏（副理事長）。講話の授業にも熱が入る



訓練士学校第1期生入学式。ハーネスを手にし、視覚障害者福祉への貢献を決意



中庭で仲間たちとちょっとくつろぎのひととき。担当する犬も一緒に

良質な盲導犬を1頭でも多く、 安定的に育成するために……



盲導犬の希望者は、全国に約3000人。
慢性的な供給不足を解消するために、
盲導犬の育成に真摯^{しんし}に取り組む。



盲導犬の 3つの基本的な 仕事



角を教える
壁などに沿って左に回り込む



段差を教える
上り下りの段差を見つけたら5cm以内に止まる



障害物を教える
看板、自転車、通行人などの障害物を避ける

立派な盲導犬に
なるために
訓練中！



訓練は人から犬、犬から人への双方向のコミュニケーションが大切。一頭一頭の犬に合わせた訓練を毎日コツコツと行うことで盲導犬として大切なことを教えていく



犬舎が
盲導犬を
つくる

家庭の環境に近い状況の訓練も重要



電車の乗降や上手にエスカレーターに乗る訓練、駅のホームでの安全な歩行についても繰り返し行う



ユーザーと盲導犬はパートナー。 ハーネスがつなぐ深い絆を 全力でバックアップ



担当訓練士はいつでも盲導犬ユーザーの心強い味方



訓練士は今の状況を言葉だけでなく手のひらを使って伝えながら、街中も盲導犬とともに安全に歩く訓練を重ねる

ユーザー
一人ひとりを
みつめます



ユーザーや現場の声を受けて開発され、誕生したパーハンドル型ハーネス。より快適な歩行を実現するために進化した



盲導犬との新しい生活がスタートした直後には、通勤や買い物など普段使う道で、訓練士とともに盲導犬との歩行を確認するフォローアップを行う



ユーザー座談会。駅ホーム転落事故を把握・検証し、より安全な歩行を確保するために、ユーザーとともに考える



身体障害者補助犬法で認められた、不特定多数が利用する施設への盲導犬ユーザーの受け入れ。病院でも盲導犬と一緒に診察室へ



埼玉県坂戸市では、盲導犬への理解を広めるために、盲導犬に特別住民票とマイナンバーカードを交付した

盲導犬と一緒になら、
目的地につくまでの苦労は半分、
目的地についた時の喜びは2倍。

旅館でくつろぐユーザーと盲導犬。
旅の終わりにはエチケットとして、
部屋を念入りに掃除する



盲導犬同伴でユーザーの旅行会「島根ハーネスの会」。
熊野大社へ参拝。ボランティアもしっかりサポート

日本盲導犬協会の新しい**歴史**が刻まれた



皇太子同妃両殿下、
神奈川訓練センター
ご視察



2009年4月19日、井上幸彦理事長がご案内し、
盲導犬育成の現場をご視察いただきました



大きくうなずきながら、盲導犬デ
モンストレーションをご覧にな
られました

2014年5月、国際盲導犬連盟 (IGDF) セミナーを日本で初めて開催。
当協会がホスト団体としてセミナーの運営に当たった



IGDF2014 (東京) で発表した協会職員。バーハンドル型ハーネスで会場を歩く

国や言葉の違いはあっても目指すものは、ただ一つ。
盲導犬育成事業の未来のために—



2016年、IGDF クロアチアセミナーにて、小田和正理事 (左) が IGDF 理事に選出された



2006年、盲導犬がいない中国の育成事業に協力する日中友好盲導犬プロジェクトが始動。ユーザーも中国を訪れた



2014年5月のIGDFセミナーの直後には、AGBN (アジア・ガイドドッグス・ブリーディング・ネットワーク) の繁殖ワークショップが富士ハーネスにて開催された

盲導犬のいる生活をサポートするために わたしたちにできることを**誠実に**

ユーザーと
盲導犬の新ユニットの
スタートライン
「新ユニット出発式」



富士ハーネス出発式



仙台訓練センター出発式



島根あさひ訓練センター出発式



神奈川訓練センター出発式

出発式は、ユーザーと盲導犬の新たな門出を祝い、未来に向かって前向きに歩んでもらいたいという願いを込めて行われる

今も昔も
盲導犬ユーザーの
社会参加促進のために、
声を上げる



1973年、署名活動などの成果が実り、国鉄旅客営業取扱基準規定により列車への盲導犬持ち込みが許可される

2012年、身体障害者補助大法成立10周年の節目に、「盲導犬受け入れ拒否ゼロ」を訴え、盲導犬とともに渋谷の街をパレード

盲導犬の
一生に
責任を持つ



毎年各センターで行われる慰霊式には、盲導犬ユーザーやボランティア、協会職員など多くの人が集まる



2007年、設立40周年を記念して、バラの花びらアート「インフィオラータ」を制作。盲導犬ユーザーも制作に参加した



「キャンドルナイト富士ハーネス」。毎年、その年に盲導犬の実働数だけキャンドルを灯し、その数が年々増えていくことを願う



2013年6月、「島根あさひ盲導犬パイププロジェクト」で育成された盲導犬第1号を連れて、谷垣禎一法務大臣（当時）を表敬訪問



「ワン！ぱくっ子サマーキャンプ」。視覚に障害のある小学生とその家族を対象に行う、滞在型サマーキャンプ。スマイルワン仙台で開催しているリハビリテーション事業の一つ

もっと身近に盲導犬を知って、感じて、理解して

盲導犬と視覚障害への理解と支援の輪を広げるために
さまざまな活動を展開中。



「鉄道事業者向けセミナー」。視覚障害者の駅ホームからの転落事故を機に、2016年より鉄道事業者向けのセミナーを実施（上：京王電鉄、右：相模鉄道）



「盲導犬学校キャラバン」。視覚障害者や盲導犬への理解を深めるために、小・中学校を訪問する。子供たちは盲導犬に興味津々

高い関心と
ご支援、
ありがとうございます



目指せ盲導犬訓練士！ 富士ハーネスでの子供体験デー



2月23日の富士山の日に開催された、富士ハーネスでの体験歩行



盲導犬へのふれあいを通して活動への理解を深めていただくチャリティーイベント（玉川高島屋S・C）

百貨店でのユーザー受け入れ対応セミナー（そごう横浜店）



街頭での募金活動。
温かいご支援を直接感じる



PR犬は入院患者の痛みを和らげたり、リハビリテーションに役立ったりなど、セラピー犬としても活躍



「盲導犬育成チャリティゴルフ大会」。毎年の恒例行事で、多くの方にご参加、ご支援いただいている



国際盲導犬の日に合わせて行われた啓発イベント。盲導犬ユーザー、ボランティアも協力して開催

盲導犬の活動をご理解いただくために、各地の知事や市長を訪問



静岡県知事、富士ハーネスを訪問（2011年9月）



伊那市長訪問（2013年12月2日）



一関市長訪問（2015年8月10日）



米沢市長訪問（2016年2月18日）



山形県知事訪問（2017年5月11日）



たくさんの皆さまの 大きな**愛**に支えられて

日本盲導犬協会は、ボランティアの皆さまの
大きくて温かい「愛」によって支えられています。
良質な盲導犬は、愛情のバトンリレーの中で育成されています。



繁殖犬飼育
ボランティア

盲導犬としての資質を持ったお父さん
犬、お母さん犬を家族の一員として迎
えていただき、一緒に生活しながらお
預かりいただく



パピー
ウォーカー



盲導犬候補の子犬を約10か月
間、家族の一員として迎えていた
だくボランティア。家族とともに
さまざまな経験や出会いをする
中で、人間に対する親しみと信頼
感が築かれる



イベント
ボランティア

訓練センターで行う見学会や盲導
犬啓発 (PR) 活動のイベントでの
会場整備や片付け、受付、パンフ
レット配り、参加者の案内、募金活
動のお手伝いなどをしていただく





温かなご
支援・ご協力
感謝しています

ボランティアの皆さんの日頃の活動に感謝の気持ちを込めて、夏祭りを開催



ケンネル
ボランティア

引退犬
ボランティア



犬舎の掃除、犬用タオルの洗濯、犬の手入れや散歩、排泄、給餌、訓練犬の世話、ユーザーが盲導犬をシャンプーするときの補助などを行う



引退した盲導犬を家族の一員として迎えていただくボランティア。新しい家庭の中で、一般の家庭犬のように、のんびりと余生を過ごす



キャリア
チェンジ犬飼育
ボランティア

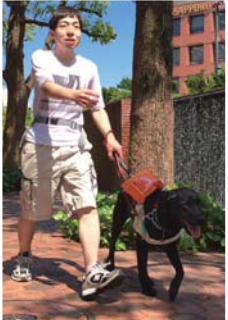


PR犬など、盲導犬の候補犬からキャリアチェンジした犬を、家族の一員として迎え入れ、天寿を全うするまで飼育していただくボランティア



50年で 851頭

2017年7月末現在



すべては
ユーザーの笑顔の
ために





これからも、ひたむきに
視覚に障害のある方に寄り添い、
未来に向かってさらにまた一歩。



公益財団法人日本盲導犬協会 副理事長

黒光庸恭 (Tsuneyasu Kuromitsu)

日本の盲導犬育成事業は、すでに半世紀を超える歴史を持っています。その歴史とともに歩みを進めてきた日本盲導犬協会が、設立50周年という節目を迎えました。その記念すべき時期に、副理事長として臨めることを光栄と思うとともに、その責任の重さも感じています。

私が当協会の運営にかかわることになった2003年(平成15年)当時、日本盲導犬協会は業界のリーダーになるべく、積極的な盲導犬育成に取り組んでいました。しかし盲導犬育成頭数にこだわあまりか、ある意味自転車操業的な運営に陥っていた時期でもあったと思われます。そのため視覚障害者の方々のニーズに、しっかり応えているとは言い難い状況が生まれていました。

この状況から脱却するために必要と考えたのが、「徳のある協会づくり」であり、それを支える「優秀な人材の育成」でした。

「徳のある協会」とは、公益事業者としてきちんと事業実績を上げ約束を果たし、何ごとにも真面目に、誠実に、愚直に取り組む「障害者のために」を価値判断の基準において行動ができる組織を指します。つまり「徳のある協会づくり」は当協会の体質改革を目指したものです。

この改革で重要なのが、「優秀な人材の育成」です。特に盲導犬育成団体である当協会にとって、優秀な訓練士の育成は急務でした。そのため、まず取り組んだのが盲導犬訓練士学校の設立でした。

訓練士学校設立は、日本初の事業だったこともあり暗中模索の毎日でした。それでも、多くの方々の助言やサポートのおかげで、2004年(平成16年)4月、「日本盲導犬協会付設 盲導犬訓練士学校」が開校の運びとなりました。私は初代学校長という名誉を受け、第一期生10名を迎えたときの感動は、今も忘れることができません。

「徳のある協会」として、
社会との約束を果たしていくこと。
それが私たちの任務です。



訓練士学校で、私が学生たちに強く伝えたいと考えたのは、盲導犬を育成するために忘れてはならない「こと」です。私は彼らと約束をしました。それが「4つのコミットメント(約束)」です。

「誠実な人でありなさい」

「^{ひきよう}卑怯な人になってはいけません」

「社会正義を愛しなさい」

「世の中の役に立つ人間になりなさい」

私は授業で、また学生たちとの会話の中で、ことあるごとに4つのコミットメントの説明や仕事とのつながりについて話しました。

これは当時、設立されたばかりの盲導犬訓練士学校に、大きな期待と同様の不安を胸に秘め入学してきた若者にとっては難解な言葉だったかもしれません。しかし卒業生の多くが、現在も協会で訓練士や職員として、盲導犬の育成と後進の指導に活躍している姿を見ると、あの約束は間違っていなかったと感じています。卒業生たちは当協会だけでなく、将来的に業界の成長を担っていく人材だと確信しています。

時を経て、「4つのコミットメント」は、現在日本盲導犬協会で働く100人を超える職員にとっても大切な言葉であると思っています。

それぞれのセクションで「誠実に、卑怯な行いをせず、社会正義を愛し、世の中の役に立つ」、そんな気持ちで毎日の仕事に取り組んでほしいのです。これは盲導犬訓練士に限らず、盲導犬育成団体である当協会に働く私たちにとって忘れてはならない「社会との約束、ではないでしょうか。

最後に、職員一人ひとりの活動は、すべて個人、企業、団体など善意の方々から寄せられた浄財によってまかなわれていることを、常にこころに留めておいてほしいと思っています。

小田和正 (Kazumasa Oda)



国や文化が違ってても すべては「視覚障害者、のために」

盲導犬は日本だけではなく世界各国で活躍しています。私はこの盲導犬の国際的な組織である国際盲導犬連盟 (IGDF: International Guide Dog Federation) の理事を務めています。

IGDFは英国に本拠地を置き、世界30か国92の盲導犬育成団体が所属しており、現在、加盟団体が育成した盲導犬の実働総数は2万頭を超えています。「目の見えない人、見えにくい人々に歩行手段としての盲導犬の提供を推進している加盟団体への支援」を目的として幅広い活動に取り組んでいます。またIGDFは、加盟の是非を審査する基準が非常に厳しいことでも知られており、当協会も長年にわたってさまざまな改善に取り組み、1998年に正式に加盟が認められました。

IGDFの理事会では、「盲導犬育成事業の普及」「定期的な査察による高度な盲導犬育成基準の維持向上」「盲導犬ユーザーのアクセス権の拡大」などについて、常に活発な協議を行っています。

2014年には、日本盲導犬協会がホスト団体となり、日本初のIGDFセミナーを東京で開催しました。このセミナーには、世界中の加盟団体から300人近い盲導犬育成事業者が集まり、訓練技術やパピーの育成技術をはじめ、繁殖にかかわるDNA研究、さらにはITを利用した情報提供や事業運営など、広範囲にわたるテーマについて研究発表、活動報告、情報交換が熱心に行われました。

こうした国際セミナーに参加してわかることは、国や地域が違ってても「視覚障害者のために」という思いは変わらないということです。

設立から50年を経た今、日本盲導犬協会は国内の他団体と事業運営や人材交流などの面でさらに連携を進め、合わせてIGDFを通して国際的な活動にも積極的に参加することにより、盲導犬育成事業の一層の発展に寄与していく所存です。

勅使川原直彦 (Naohiko Teshigawara)



ボランティアの役割はますます大きく。 支援者が満足感を実感できる システムの構築を

日本盲導犬協会のさまざまな事業は、個人、企業、団体など善意の寄付をしてくださるサポーターや、多くのボランティアの方々によって支えられています。

パピーウォーカーをはじめ、引退犬や繁殖犬、PR犬の飼育ボランティア、ケネルボランティアやイベントボランティアなど、現在協力していただいているボランティアは、総勢3,000人あまりにのぼります。最近では、企業の社会的責任 (CSR) の取り組みとして、ボランティアをしてくださるケースも増えています。こうした支援者に対して、当協会は何をすればいいのか、しっかり考えていかなければなりません。

以前、私は当協会のパピーウォーカーになり、子犬と暮らしながら社会貢献をするという貴重な経験をしました。そのときボランティア仲間の集い「あい☆ボの会」(アイ・ボランティアの頭文字)を発足させました。パピーウォーカーの毎日は、楽しくてやりがいがある反面、将来盲導犬として活躍できるように育てなければならないという大きな責任感やプレッシャーがあります。そのため悩むこともしばしばです。そんなとき「あい☆ボの会」が、パピーウォーカー同士の情報交換と親睦を深める場となることができると考えました。

協会理事として多くの支援者の声を聞くにつれ、寄付が生かされていることがわかる、ボランティアがやりがいを感じることができる、そんな支援者が満足感を実感できるシステムの構築が必要と考えます。

今後、ボランティアの役割はますます大きくなっていきます。当協会はボランティアの方々と良好な関係を継続しつつ、「徳のある協会づくり」へとつなげていきたいと考えています。

公益財団法人日本盲導犬協会 常任理事(常勤)

多和田 悟 (Satoru Tawada)

**私がどのような状況であれ
私が私であり続けるために。
全ての人が当たり前
生きたいように生きられる世の中に**

小学校6年生の時に初めて見た点字の本は何も書いてなくただきれいに配列された粒々が影を作っていました。その後、高校生になって自分で点字を打つようになり、点字を通して同い年で生涯の友となる友人に出会い、視覚以外の方法で情報を集める彼を通して自分と違う方法で生きる人がいることを知りました。歩くときには杖を使って一歩ずつ確実に足を置くべき地面があり歩行を妨げる障害物がないことを確認して歩いていました。

学園紛争さなかの大学を中退し日本盲導犬協会小金井訓練所に入ったのは1974年でした。多磨墓地の横の芝畑にプレハブの訓練所がありました。迫水久常理事長とは一度だけお会いしました。

見習い時代はひたすらに私をこの世界に導いた多くの目の見えない人たちが安心して道路を歩けることを目指して犬の訓練を続けていました。当時は厳しくしつけた犬を使って犬を信頼して歩けば安全は確保できると教えられ、そう信じていました。犬たちには理不尽な要求をしていたと思います。その結果は視覚障がい者の歩行や犬との生活の要求を満たすものではありませんでした。

それらの歴史の上に今の、視覚障がい者からも社会からも支持される、日本盲導犬協会の訓練方法が確立されました。2004年から11年間、盲導犬訓練士学校の教務長として学生とともに学び、訓練士一人ひとりと理想の訓練を語り合うなかで形になってきたものです。

【犬を含め誰の犠牲の上にも立たないで】極めて大切に当たり前の大前提のもと、安全で快適な盲導犬歩行の提供、という協会の使命を達成すべく、今後の社会の必要にどう応え発展させるか、次世代を担う職員の養成とともに次の課題としたい。

公益財団法人日本盲導犬協会 常任理事(常勤)

吉川 明 (Akira Yoshikawa)

**人と機会に恵まれ、成長できた15年。
次世代につなぎ、視覚障害福祉への
貢献で恩返し**

日本盲導犬協会が50周年を迎え、記念誌を制作するにあたり思い返して見ると、この15年間の変貌は大きなものがあります。2001年にようやく盲導犬事業が福祉事業となり、2002年身体障害者補助犬法と社会環境は整備され始め、当協会は日本最大規模の訓練センターを横浜と仙台に建設したにもかかわらず、盲導犬育成現場、協会運営現場ではさまざまな課題を抱えていました。

そうしたなか、現理事長、副理事長の指導の下、さまざまな改革に取り組んできました。たとえば、盲導犬業界ではめずらしい中期経営計画を立て、それにそって事業改革・組織改革を行いました。訓練士学校の開校、繁殖センター機能を持った施設建設、QCサークル活動など。私にとっても勉強の連続でした。

改革の中心にあるのは「徳のある協会づくり」から生まれる、`名実ともに日本一の盲導犬育成協会になる、というビジョンです。盲導犬訓練士をはじめとした人材育成、盲導犬の育成プロセスの確立・向上、安定的な財務管理、そしてステークホルダーである視覚障害者・支援者・ボランティアの満足度達成など、こうした施策をセクションごとに精査し、レベルアップしていきました。

これらはすべて「良質な盲導犬を安定的に育成する」ことにつながります。50周年の2017年度、「50頭育成」を達成します。安全・安心の50頭育成体制の確立、15年間の成果です。

障害者差別解消法が2016年に施行され、社会情勢は大きく変化しています。より障害者に寄り添う事業、より良質な盲導犬の安定的育成、日本盲導犬協会の社会的価値の向上、それを支える徳のある職員の幸せ、より高い次元での協会ビジョンの達成をさらに目指していきます。



神奈川訓練センター



仙台訓練センター「スマイルワン仙台」



日本盲導犬総合センター「盲導犬の里 富士ハーネス」



島根あさひ訓練センター「パピネス」



東京事務所

チームワークを大切に、質の高い業務を遂行します。
情熱を持ち、真摯に努力し続けます。
感謝の気持ちを持って、目標達成の喜びを分かち合います。

Staff Commitments